曹青通信

発行所
曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務庁内
発行責任者 吉岡棟憲
TEL03-454-5411(代)

青年宗侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年宗侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

四十七団体・三千六百余名を網羅し

曹洞宗青年会名簿 (全国版)を発刊

今期の全曹青は地域曹青単位による『団体加入』を最大のテーマとして組織の大改革を画してきた。幸いにもこの方針は全国の多くの曹青会員の理解を得、二年間で三十六曹青の団体加入を実現した。また、未加入の多くの団体で加入が検討されている。

さらに、今回、組織改革のまとめとして『曹洞宗青年会名簿(全国版)』を発刊した。全国の心ある者が互いの連絡を密にし、また、新たに続く会員がこの名簿で大いに勇気づけられると確信してやまない。

全曹青発足の意義は

青年会が各地で結成され、それぞれの活動内容が伝えられるにつれ、単位曹青の間では活動の情報収集が活発になっていった。同じ志を持つ者が、同じ活動をめざしていることは大いに勇気づけられ、さらに自らの活動に生かせる企画を誰もが探していたのである。

曹青の活動とは『大衆教化の接点を求め』た活動であり、教化活動には対機に応じた新しいアイデアがたえず必要である。その意味では情報収集は曹青活動の命脈といえる。

全曹青発足時に、各地の曹青が期待したものの一つに活動に対する的確な示唆があった。その示唆とは各地の曹青の躍進に直結するものであり、各曹青をリードできるものでなければならなかった。発足したばかりの全曹青もまた期待に応えるべく様々な活動を提案し続けた。その提案・企画は今日、各地の曹青で生かされ、全曹青存在の意義を高めている。

組織の矛盾を抱え

しかしながら、全曹青を個人の意思ある者の集合とした点は活動の理想ではあるが難しい面もでてきた。発足十年にわたる組織委員会を中心とした会員の啓蒙、組織化の努力にもかかわらず現実には、地域曹青内で並行するかのごとき存在となりこのままでは相反する団体ともなりかねない実情がでていた。会員啓蒙による会の組織化は『百年河清を俟つ』の感を多くの執行部がいだいたのではあるまいか。

十年の実績をもとに『団体加入』を促進

『全曹青の在り方を問題視する向きはあろうとも、存在そのものを否定する会員はいない』となれば、より良い全曹青をめざすには組織の抜本的な改革が必要と判断し、団体加入を打ち出したのが今期執行部である。

団体加入は組織の再生、再確立を画したものであるが、誤まれば、全曹青解体に直結する面もあった。解体までに及ばなくとも、十団体程度の賛同しか得られなかった時は、有名無実の団体と化してしまう恐れもあった。幸い、多くの団体でご理解をいただけたが、これは発足以来各期の執行部が宗門の青年会として青年宗侶の本分を尽すべく愛宗護法の道心に燃え心を一つにして活動された下地があって得られたものである。全曹青の活動を知る誰もがその必要性を認めていたのである。

もとより、組織的な変化はあろうとも個々の会員の啓蒙を通して会の基礎を堅め、健全な運営を図る姿勢は今後も維持していかねばならないことである。

宗門教化活動の第一線として 組織委員会の責務増大

組織的な整備は大きく進んだが、今一度発足の精神を再認する必要があろう。会則には『相互の連携を計り、青年に賦えられた知と力を結集し、つねに開かれた世界への活動を通して、宗旨に根ざした人間の育成をはかり、もって健全な社会の形成に寄与することを目的とする』とある。曹青は自己の研修に加え、更に宗門教化の第一線に位置づけられるのである。

曹青活動の活発化は宗門教化に欠かせない。その為にも全曹青は各地の曹青の、活動に対し示唆を続け充実の拠り所とならねばならない。更に組織的な確立が果された今日では、組織委員会の性格も組織充実の為の委員会から各曹青の意見反映を図る委員会と変貌し情報収集も一段と活発化させるものでなければならなくなる。それでこそ示唆も内容のあるものとなってゆこう。

今回発刊された、この名簿は単位曹青間の連携を深める為にも大変な効果がある。この名簿を手にした諸兄が同行の多くの法友を知り互いに手を結んで進まれんことを願いたい。

また、ご協力いただいた各曹青に心より感謝申し上げるとともに、作成にあたった組織委員会の諸兄に万雷の拍手を贈りたいと思う。

なお、会員名簿は団体加入の全会員に贈呈されるべく該当曹青の事務局あてに必要部数が送付されているので受け取られたい。

目 次

四国・東海で大会……2
スリランカ仏教遺跡研修の旅(中)……3
我が曹青を語る……4
インタビュー 秦辰也・プラティープ夫妻……5
阿波城満寺復興……6

全国曹洞宗青年会 62年度定時総会のご案内――〈禅の集い中央研修会〉

『生命の始まりはどこか…』

昭和六十二年度の定時総会を次のように開催いたします。

今回は、六十一年度の事業等のご報告をいたすとともに第七期全曹青執行部を選出し、新方針を審議する総会となります。また、『禅の集い中央研修会』では近年、各地の会で取り上げられている『生命』の問題を研修します。今日の社会変化は『生命』の概念すらかえようとしています。各地の「禅の集い」に直結する内容になると思いますので、多数のご参加をお願いします。

記

時 昭和六十二年五月十九日(火)～二十日(水)
会場 曹洞宗宗務庁 仏教伝道協会
内容 十九日 午後二時より
総会 六十一年度 事業報告 会計報告
第七期執行部選出
六十二年度 事業計画案承認
会計予算案承認
研修会 映画『いのち』
(東北管区教化センター主管映画)
仏弟子誕生『得度式の実際』
(愛知第三曹青)
二十日 午前九時より (会場 仏教伝道協会)
講演 講師 花山勝友先生
一、大蔵経英訳の発願とその活動
二、『生命の始まりと終り』
中華精進料理を味わう

破草鞋

有時は時すでにこれ有なり、有はみな時なり、時なるがゆえに時の荘厳光明なり

時の間、洗濯を干し、庭を掃き、坐して茶を喫し、そこに掃き清められた庭が露呈し乾燥した衣類が風に揺れ喫し了って坐を立つ、人の行為は生命の現成ではなかったか、

山際の道を歩いていた、あ、この身体が生命なのだ、足先から指先まで全鼓動のいのち、刻々と時を刻むそのまま、有を実現してゆく、五十億の人間は全地上の生命の仲間の極めて少数とは云え、有機的細胞の独立巨大結集体、顕微鏡下皮膚の一片すら整然たる組織機能の美しさ、その総合体人間の身体はもう荘厳の極致で常識の及ぶ限界ではない、然もお互い平然とこの驚くべき自己を今日も一日安閑と暮している、結構なお互いさまよ

全一者〝神〟の被造物としての宇宙観の矛盾を突く人があるが、全く我々仏教徒には科学は存在の認識手段であって、より明確に探り出し、深く広く世界を知らせてくれる手であり目であらうと思う、仏教の教えの根本は八正道が重要な柱の一つだからである。追いつめられた極限の戦争体験下、平和時の平凡な日常生活がどんなに豊かで尊くすばらしく思えたことか、

人は癌の宣告を受け餘命を宣せられ、死が一日一日絶対に迫って来る時、日一日が質的転化をして心は高揚圧縮されてゆく時、身を以って体験するのが生命の時の荘厳光明である、そこに見る世界は人も小鳥も樹々も光明の輪光を放っていることをまざまざと見えるのである。諸仏諸菩薩ばかりではないのである否、全ては仏世界荘厳の有時なのであった。

中国曹青
高知で大会
東海曹青は『花まつり』

去る二月二十八日、南国高知で四国曹青（村上徳存会長）の第四回大会が開催された。会場は高知市内の新阪急ホテルで、遠く九州曹青からも参加を得、なごやかな雰囲気で開催された。

今回は講演が二つ開かれた。地元愛媛県宗務所人権擁護推進委員石田圓明老師からは『宗教と差別』と題され、長い教職のご経験から宗教者の誤り易い点などのご指摘を受けた。さらに今回は仏教学者としてご活躍中の、ひろさちや先生の講演『仏教をどう生きるか』では仏教徒として僧侶としての処世術に頷くことの多い研修会となった。

また、会の冒頭には、この四国徳島の太祖大師初開道場城満寺復興計画がご住職大槻哲也老師より発表された。静かな口調ながら法燈護持のへのご熱意が会場隅々まで浸透し参加者一同、改めて宗祖の遺徳を偲んだ。（六頁参照）

講演後の定期総会では今回役員改選が提示されていて、

新会長に
大場良憲師（愛媛・昌福寺）
全曹青理事に
仙井秀道師（愛媛・明応寺）

が選任された。また、次期全曹青派遣役員も審議された。

折から、南国高知はプロ野球のキャンプ・オープン戦が行なわれ、ホテル内を人気選手が闊歩するたびに歓声が起るなど、春を満喫する地であった。

四国大会

東海大会

四月八日には東海曹青大会（今井燿詮会長）が昨年に続き『花まつり』として開催された。今回の担当所管は愛知第一曹青で、併せて同曹青の結成十周年大会を記念した会であった。

会は四月五日より三日間名古屋市内のデパート（松坂屋）で灌仏会を開き、八日には円楽一門による『花まつり寄席』の開催となった。

この会で縁を結んでいただいた人は一万二千人に及んだ。

なお、東海曹青では次期役員として
会長
中島徳禅師
（愛知・常昌寺）

を選任している。

中国曹青　活動報告
広報委員　中村見自

昭和六十二年三月三十日現在

中国地区曹青紹介

◎曹洞宗広島県宗務所青年会
会長　家古谷光現　　会員数　一一四名
緑蔭禅の集い（七月）・眼蔵会（四日間）・親善ソフトボール大会・一泊参禅会・徒弟研修会

◎山口県曹洞宗青年会
会長　久楽宗哲　　会員数　六十九名
「心の大学講座」（本年は、三月二日より四日間に渡り、元永平寺講師　小倉玄照師を迎え、県内六会場で講演会を行なう。）
緑蔭禅の集い（七月、一般対象）・難民救済托鉢

◎石見曹洞宗青年会（島根県第一）
会長　萩野泰道　　会員数　二十四名
緑蔭禅の集い（七月、一般対象）・秋季（布教）伝道・歳末助け合い托鉢（難民救済キャンペーンの一環）・親善ソフトボール大会

◎いずも曹洞宗青年会（島根県第二）
会長　村上正光　　会員数　六十四名
法式・教化の二分科会を設け、法式分科会は、毎月各種行事法堂関係の実技研修。教化分科会は、毎月法話と梅花研修を交互に行なっている。（本年度は、精神薄弱者施設を慰問、又、法話演集「墨衣」を出版。）会報を年二回発刊。

◎岡山県曹洞宗青年会
会長　祐川猶善　　会員数　二十名

◎曹洞宗鳥取県青年会
会長　中村見自　　会員数　九十七名
「閑坐摂心会」（中学生徒を対象に定員三十名での坐禅会）会員研修親睦会

昨年度山口曹青の所管で開催された中国曹青大会はテーマを『生命』にしぼり、シンポジュウムを開いた。この討論内容は先の四十八号ですでに報告した通りである。中国曹青では一昨年度のいずも大会ですでに『生命問題』を取り上げている。その時のまとめが『宗教と生命観―今みつめよう生命』なる小冊子が発刊されたこともすでに既報の通りである。

ところで、この小冊子の内容が好評で各地で配布希望が出ている。『生命』の問題は宗教家にとって避けられない問題である。担当のいずも曹青から更に詳しく紹介し会員の研修に供したい。

花まつり

宗教と生命観

今みつめよう生命（いのち）
いずも曹洞宗青年会々長　村上正光

この本は、最初に四人の先生方の発題、問題提起があり、その後討論を重ねていただいて、最後にフロアからの質問を受けるという展開になっています。

はじめに、石川先生による「個体の死とは脳死か心蔵死か」という問題提起です。今世間で問題になっている心蔵死と脳死の規定について述べていただいています。この中でおもしろいのは、臓器移植によって心臓などの臓器や手足が、全部他人のものであったら、その人はだれになるだろうかという点です。また、脳死と植物人間は、どこが違うのかという点も興味深いところです。

次に塚谷先生に「モラロジーの立場」から述べていただきました。開講式で私達が普同三拝をしているのを、「頭を丸く刈り上げた皆様が、頭を垂れていらっしゃるところを見ますと、あれ、私は今生きているのか死んでいるのかなというような錯覚にとらわれました。」という、私達が日頃考えもしなかった文章から始まります。道徳運動を通しての生命の問題、生き方にふれ、最後に脳死の状態にある子供を看病していた時の両親の話で結んであります。

次は「法律と生命」という内容で、松原先生から問題提起をいただきました。「死刑」というものの是非、安楽死の問題、脳死と判定され臓器の移植はどういう罪になるか。などということについて詳しく述べていただいています。

沢先生からは、「宗教家の為すべき、福祉と生命尊重」という内容でご意見をいただいています。子供の社会を通してじめ、自殺、愛情欠乏を私達宗教家はどういうように教化していくかということ、あるいは福祉の歴史なども述べていただいています。

次は実際に討論をしていただいていますが我々で七つのサブタイトルをつけました。

「死の判定とその必要性」―脳死をもって個体死と認めるか、そしてそのことが、どういう必要性があるのかという点。

「死の宣告」―余命いくばくもないというとき、死を本人に知らせるかどうかの問題。

「人の死と愛の問題」―他者の臓器を頂くと意識回復できる。しかし回りの人が反対しようと思っているかもしれない反面、他者の死をあてにして生きているという愛の点。

「生命のはじまりと法律上における死の概念」―いったい生命はどこからが始まりなのか。（それぞれの先生が異った見解で述べられています。）そして死とは何だろうかという点。

「生き方と生命の神秘」―生きているのじゃなくて、本当は生かされているのではないか、色々な恩を受けているのだから恩返しをしなければならないのではないかという点。産まれたばかりの子が片手で鉄棒にぶらさがるという神秘さ。

「信仰と生命のとらえ方」―輸血拒否の問題は認めるのか。あるいは親権とは何か。

「信仰が医療に与える力」―本来の人間は、病気を治そうという能力をもっている。それを医療で積極的に高めてやる。では信仰によって心の使い方が、からだに与える影響はどうであろうか。という点。

人工心臓で生命を永らえる患者、輸血拒否で生命を失った少年、後追い集団自殺、脳死と臓器移植等、数限りなく私達の眼の前にあらわれてくる生命の問題。生死の別れ目に臨んで我々宗教者は何ができるか。また家族にどのような助言を与えることができるのだろうかというような問題解決の参考になれば幸いに存じます。

この本をご希望の方は、葉書にて住所、氏名、電話番号を明記の上、左記へお申し込み下さい。この本が、なるべく多くの方に読まれる事を念願するものであります。

〒六九二―〇七
島根県能義郡広瀬町西比田　観音寺内
いずも曹洞宗青年会事務局　藤原玄聖宛
TEL　〇八五四三―四―〇〇三三
喜捨料一冊　五百円（五十冊以上一冊四百円）
十冊未満送料実費、十冊以上送料無料

我が曹青を語る(8)

茨城県曹洞宗青年会

茨城県曹洞宗青年会は、関東地区でも、もっとも古い歴史と、その伝統の上に立った充実した組織と運営内容をもっていると自負しております。今年で創立三十周年を迎え、ここまで育て上げてくれた先輩諸老師の努力に報い、これからの茨曹青の発展を願って、三つの大きな行事を計画しております。ひとつは、大洗港と北海道の室蘭を結ぶフェリーを利用しての「わんぱくZENスクール」です。四泊五日の旅程の中で、一人四万五千円という各安な料金で、二十一世紀を生きる子供達を、北海道の広大な自然の中で、大いに遊ばせ、学習をさせたいと思っています。又、二つめの行事として、県内でつかえるコンパクトな差定帖を編集しようと、四年計画で、今最終校正の段階に進み、なんとか今年中に発刊できそうです。三つめは、県内リレー托鉢です。県内の五大都市を順次に托鉢をしていき、その浄財を、社会福祉施設に寄付をしたいと考えています。以上、三つの大きな行事を、なんとか成功させたいと、会員一丸となって、頑張っているところです。

会長
小原宜弘

茨曹青には、四つの委員会があります。研修委員会、法式委員会、広報委員会、緑蔭禅実行委員会です。研修委員会では、佐々木章格君が委員長となり、「祖録輪読会」が開かれます。大学を卒業し、法務におわれがちで祖録に直接触れる機会の少なくなった我々には、大切な勉強の場で、委員長はじめ、熱心な輪読がされています。法式委員会では、副会長の伊藤清悦君、委員長の小林良雄君らが中心となって、今までは、法式進退研修を主体に運営がされていましたが、それを土台として、三十周年記念の差定帖の編集に、全力をあげているところです。広報委員会は、弱冠二十八才、若手のホープである鯨岡宏智君が委員長で、毎年度の活動状況の報告を「紀要」にまとめあげ、又、年三回の新聞の発行をめざしています。緑蔭禅実行委員会は、今年で十四回を迎え、内容の見直しと、これからのあり方の問題をふまえ、これも若手の中から、鈴木龍穏君を委員長にすえ、時代に即した変革をめざそうと思っています。

茨曹青は、以上の様な定期事業と、特別事業を、六十二年度に実施してまいります。会員それぞれに忙しい中、何とかやりとげようと、チャレンジ精神で燃えています。宗内教化の先兵として、今の時代を支え、これからの世紀を背負う人達に、青年会活動を通し、「禅」の心を伝え、育くんでいきたいと思っています。

●洋上セミナー
わんぱくZENスクールを計画

役員紹介

会長　小原宜弘
副会長　戸田文秀
　　　伊藤清悦
　　　笠島道宗
三十周年記念行事実行委員長
　　　秋元裕峰
事務局長
　　　梶浦祐顕

図書出版　新製品紹介

曹洞宗ボランティア会刊
スラムのともしび・プラティープ先生

アジアにかかる虹

スラムは最近、『不潔であり、病巣あるいは犯罪の地』という見方から、『人工密集コミュニティー』という見方に変ってきている。これはただ消してしまおうとするスラム対策ではスラムの移動しか意味をなさず、問題の本質は流浪者に対する社会的な暖かさの欠如であり、さらに貧困問題・労働問題等が底辺をなしていると指摘される中でおこった考えである。

この本は今年の一月三日に曹洞宗ボランティア会バンコク事務所長を務める秦辰也さんと結婚したプラティープさんの物語である。彼女はタイのスラムで育ちその子どもたちの教育に情熱を注ぎ、マグサイサイ賞受賞に輝く女性である。

文中に『・・・私たちは、鍋も米も水もかまどもも炭、そしてご飯を炊くことまでしてもらってはいけない。・・・そんな方法は人間を駄目にしてしまうから』と彼女は語るが、そのまま曹洞宗ボランティア会の目指す活動と思える。

この本からなぜ彼女がスラムの天使と呼ばれるか理解いただけよう。

発売は5月中旬
勁草書房　1,700円

問合せ
曹洞宗ボランティア会
東京都豊島区巣鴨1―6―5
TEL03―945―0981

全国曹洞宗青年会監修
東芝EMI㈱制作
檀信徒向けビデオ

〒110 東京都台東区台東4―27―5 秀和御徒町ビル
東芝EMI㈱マーケティングセンター
TEL(03)837―0634(一般レコード店で発売中)

今までにない檀信徒向けビデオであり、『曹洞宗』の教え、その尊さを、一般檀信徒に大変判り易く編集されている。

『曹洞宗』の宗旨を問われた時の導入にはふさわしい内容といえよう。

宗侶が解説を加えればさらに利用度も増す。特に現代の若い人に見せるには暗いイメージを持たれない為にも、ある程度の前置きが必要に思える。

内容は、三部で構成され

㈠日常勤行式お経の唱え方と作法チェック
㈡お仏壇のまつり方とお勤め作法(仏具の意味など)
㈢道元禅師のご生涯とその教え　本山紹介など

となっている。仏具・経本などの扱い方、焼香作法、坐法といづれもすぐに檀信徒が利用できるものばかりである。

般若心経、修証義が読まれているが経典を読み慣れている檀信徒には独誦の為、息つぎなどが不自然に聞こえるかもしれない。

『曹洞宗』は『行』と取られ易いが『信』の宗教であることも忘れず、このビデオを活用したい。

法要、参詣の合間などにテレビ設営しておけば格好の檀信徒教化となろう。ご購入をお勧めする。

首都圏 近畿圏 寺院墓地の 新設 増設 改葬 お任せください。
◆墓地の企画・造成をはじめ、開発・経営許可の申請手続きの代行、資金のご相談、永代使用申込者(檀家)の募集受付・管理業務、建墓設計・施工請負など、すべてお任せください。
◆納骨堂、無縁供養塔の建立もお受けしております。
◆寺院仏具、檀家の方の仏壇・位牌のご注文を承ります。
――お気軽にご相談ください――
墓所・墓石・仏壇
―新しい祈りの文化を創造する―
メモリアルアートの大野屋
本社/〒187東京都小平市美園町3-2-5 大野屋ビル ☎0423-44-4111㈹
寺院墓地のご相談受付は
●大阪支店☎ 06-344-7777㈹　●横浜支店☎045-312-4111㈹
●渋谷営業所☎ 03-486-7777㈹　●浦和営業所☎0488-32-4111㈹
●相模原営業所☎0427-54-4111㈹　●船橋営業所☎0474-24-7111㈹
●メモリアルカルチャーセンター☎ 03-361-4111㈹

第8回禅文化学林スリランカ仏教遺跡研修の旅(中)

Ayubowan Sri Lank

シギリア美人に逢う

第三日　一月二十八日

仏歯寺へ

前夜のケラニア寺での大歓迎も冷めやらぬまま、次の仏歯寺に向う。スリランカののどかな風景をぼんやり追っていると突然バスの目の前に人が飛び出して来た。「象が出る」とさんざんガイドさんに威かされていたので思わず見構える。よく見ると前を走っていたバスも止っている。何とジュースを飲んでニコニコしている人もいる。

日本に二十年も居て現在は日本の薬会社の出張所を開いている方が『丹羽禅師様の訪問』を聞いて屋台を並べ、参加者にジュースのサービスをして下さったのだ。途中でパイナップルを買って食べていたが、この歓迎は暑いバスから降りる喜び以上に心が休まった。

途中バチックの工場を経由してお昼頃ホテルに到着。昼食を取って、キャンディ市内観光に出かける。ここには大学があり、また、宝石の産地でもある。

仏歯寺では楽団の出迎えを受け拝登諷経の後、歓迎の言葉を長老よりいただく。釈尊の歯をまつる舎利塔は高さ二メートル程の金色のストゥパ。まわりは丹羽禅師様から贈られた防弾ガラスで囲まれている。丁寧に案内され、合掌して堂内を巡った。

それにしても寺は広い、前日のケラニア寺も城壁で囲まれているような作りであったが、ここも同じ。

仏歯寺での歓迎楽団

寺から出るとまた大勢の人が待っていた。珍しさもあるのだろうが、釈尊を慕ってこの国に来た仏教徒を歓迎してくれているのだろうどの目にも暖かさがある。

仏歯寺は八月に十日間ペラハラと称する仏歯祭が繰り広げられる。多くの象が出場し全国から僧侶が集うスリランカ最大の祭りという。

第四日　一月二十九日

この日は朝ずいぶん早かった。小高い山の上から見たキャンディの町は人口湖に映えて美しい。遠くに城のような建物も見える。

「今日は岩昇りですよ」とのガイドの声に我に戻る。これから出かけるのは前日見た岩山シギリアである。スリランカ案内の観光本には必ず載っている岸壁の美人に対面する日だ。

約2時間程バスを進ませる。最初に同じ岩山でも仏教遺跡の多く残っている「ダンブラ」に到着。入り口に仏教寺院（学校かもしれない）があって子供大人が数十人いる。しかし、事前に話がなかったのだろう、誰も出て来ない。岩山の途中でレプラ患者（?）が数名手を差し出して来る。小銭を出してその場を去る。

屋上には窟院が数多く掘られている。長さ十四メートルの涅槃像は自然石を掘った物。二千年も前の製作という。そんな洞窟が五つ作られている。また平野の中の岩山は周囲の風景が一望できる。

待望のシギリヤはそこからさらに一時間以上を要した。忽然と姿を現す岩山は正しくライオンが悠然と座っているようだ。（シギリアとはシンハ＝ライオンとギリ＝岩のこと）ここの歴史は紀元前三世紀にはすでにこの名前がついていたとのことで、見晴らしのよいところから城として使われていた。中には寺院ばかりでなく養老院まであったという。巡る階段はいずれも当時の面影を残している。めあての壁画は本来この山全体に描かれていたというが、戦争でほとんどが削り落とされ、わずかに手の届かない所に残ったものが見学の対象となっている。

シギリア山の前で

それ故、見学には目も眩むような螺旋階段（それもかなり前に作られた代物）を昇らなければならなかった。わずかの空き間にどうやってこの絵を描いたのであろうか。それよりもこの絶壁にどういう方法で登ったのであろうか。多くの奴隷にかしずかれた王女の姿は栄華をしのぶには充分すぎる。

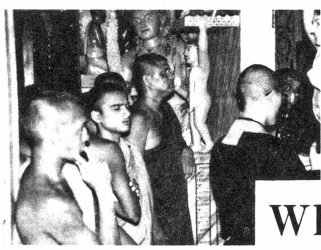
頂上に昇るには更に勇気が必要であった。手すり一本も満足になく滑るような岩肌を風が吹き荒れ、その中を這うように登った。（途中現地の人が手を貸してくれるが、ちゃんとお礼が必要である）登れば眼下にスリランカの地が広がり、この山目がけて数本の道がまっすぐに向って来る。屋上の岩を掘ったプールも巨大な岩椅子。昔日が浮ぶようである。

この後、ボランナルワの石仏、数多くの遺跡を見学しながら明日は体験宿泊の寺院へ向うことになる。（続く）

What is your name?

スリランカ寺院宿泊体験で学んだこと

愛知　龍洞院徒弟　伊藤恵正（14才）



スリランカの禅文化学林仏教遺跡研修に参加して、一番印象に残っているのは、宿泊研修だ。

どんなきびしい修行をするのだろうか。僕の周りは、日本できびしい修行をしてきた、立派なお坊さんばかりだ、僕だけできないことがあったらなどと、不安感が次から次へと浮き上って来る。その反面、どんなお寺だろうか。どんな事をするのだろうかと楽しみでもあった。

ムッとする熱気が僕を包み、ギラギラ太陽が照りつける中、僕達はバスに乗り、目的地ビディアバントウ寺に向った。

付いた時は、もうまっ暗。白いお寺がひっそりと建っていた。本堂の入口で、僕達を迎えてくれたキリッとした目をした僧侶達約二十人ぐらいはいただろうか。カキ色の衣を着て、ギラリとした目で僕達をジッと珍しそうに見つめている。僕はとうとうやって来たのかと思うと、不安はますますふくれ上ってきた。

本堂におそろおそろ入ると、うす明るい中に、きざまれた仏像があった。ずっと昔からあるお寺にしては、きわめて近代的な感じがした。

きょろきょろしているうちに開講式が始まった。お互いにお経を読む。スリランカのお経の言葉はまったく分らなかったが、僕達の般若心経と何か通じるようなものがあった。

次に案内してくれたのは食堂であった。盛りだくさんの料理を前にして、日本でいえば五観の偈に相当することをして、食べ始めた。日本と同じでだまって食べる。はしを全く使わないという違いはあるが、べとべととして気持はあまりよくないが、味は思ったより悪くなかった。

その後僕達のためにあけてくれた部屋でくつろいでいると、ドアがさっとあき四人の坊さんが入ってきた。

「What is your name ?」

「My name is Yoshimasa Ito」

こんな簡単な会話だったが、何だかホットした気分になった。「ナンダ　ビィマラ」というお坊さんで目は大きくキリットした顔だち。いつも笑っているお坊さんだ。外国人だから、皮膚の色が違うからという気は全く感じなかった。人種とか国境とかを越えて意思の疎通ができたことによって、今までの不安は消え去った。

翌朝六時起床。洗顔をして本堂に向う。すでに、坐禅がはじまっていた。さっそく僕達もゴザを敷いて、坐禅をした。スリランカは日本の坐禅とはガラリと違って、あまりピシッとやっていなかった。おつとめの時も、背中を丸めてお経を唱えている。あまり形にとらわれないでやっていた。これが大乗仏教と小乗仏教の違いだろうかと思った。

しかし、お釈迦様の教えそのまま伝えていくんだという話を聞いた時、僕は、日本の仏教もスリランカの仏教もたいした変りはないと感じた。

そして、お釈迦様の偉大さにますます感心した。それは何百年もその教えは生きつづけているのだから。

※筆者は今回参加者中、最年少。又スリランカの寺院に日本人僧が三十名近く宿泊したのは初めてのことという。

お経ビデオ

生活（くらし）にひろがるやすらぎの世界

日常勤行シリーズII
曹洞宗
その教えとお勤めの作法

第一部　曹洞宗日常勤行式
お経の唱え方と作法のチェック
第二部　お仏壇のまつり方とお勤めの作法
仏具の意味と使用作法
お線香の作法・経本の持ち方・合掌、礼拝の仕方・数珠の持ち方・座法・木魚小きんの打ち方　他
第三部　道元禅師のご生涯とその教え

全国曹洞宗青年会の監修のもとに完成!!

●Bete hi-fi/カラー49分
TT60-3028FI ¥6,000
●VHS hi-fi/カラー49分
TT60-3028HI ¥6,000

●小社へ直接ご注文の場合は、ご希望の商品名を（βかVHSかを）はっきりお書きのうえ下記宛現金書留にてお申し込み下さい。確認後、商品をお送りします。（郵送料は小社にて負担します。）
〒110 東京都台東区台東4-27-5 秀和御徒町ビル
東芝EMI(株)マーケティングセンター
TEL(03)837-0634

製作・発売　東芝EMI株式会社
●ご注文は、お近くのレコード店、ビデオ取扱店へどうぞ。

散歩道

『本当の相互理解が願いです』

曹洞宗ボランティア会
秦　辰也
プラティープ　夫妻

既に新聞テレビ等でお二人の結婚は報道されご承知の方も多いと思います。現地タイでの一月三日の挙式は前首相や国軍最高司令官も出席するという盛大さでした。今回、秦氏の郷里（福岡）で披露宴を上げるべく来日した二人に「ボランティアの在り方」また「本当の教済とは何か」お伺いしました。

新郎の秦辰也さんはかつては野球部の主将として甲子園をめざしたスポーツマン。新婦のプラティープさんは身長も百五十センチ程で細身、どこにスラム解消の為に活躍する力があるかと思ってしまうが、輝く瞳はタイの子ども達への思いにあふれていました。

改めてお二人を紹介すると、秦氏は曹洞宗ボランティア会（SVA）のバンコック事務所の所長を勤め、日本人としてはじめてタイ国におけるNGO（民間難民支援団体・非政府組織）調整機関の幹事に抜擢され無事勤めあげられたばかりである。一方夫人となられたプラティープさんはスラムの天使と呼ばれ、タイ国最大のスラムであるクイントイで戸籍がなく学校へ行けない子ども達を集めて寺小屋を始め、やがて公立の学校にまでなったという教育家である。若いながらタイ国民の尊敬を一身に集める彼女は、アジアのノーベル賞といわれる「マグサイサイ賞」を受賞し世界に知られるようになった。また、賞金を基に、「プラティープ（ともしび）財団」を設立、自ら事務局長として教育と福祉の最前戦に立ち文字通りともしびを点し続けている。

■秦さんのボランティア活動また、タイ国の情況はいかがですか。

まず、相互の理解が欠けていますね。一方的なのです。難しいことですが、相互理解のチャンスをいかに作っていくか、ですね。

たとえば、難民問題というと、一時的に大援助をしますね。勿論必要なことですが、現場では、わずかでもいいから長期の援助を期待しているのです。来年もこの援助があるというのは励みになりますし、何よりも計画が立ちます。やっぱり、少しでも現実を理解していただきたいですね。

■ボランティアを志されたのは

大学はアメリカ（サウスウエスタン・ルイジアナ大学）でして、開発経済を専攻していました。それで自然にアジア問題を考えていました。帰国して東京でサラリーマンもしたのですよ。朝早く起き、満員電車にもまれて、夜遅く帰ってくる。…自分が何だかとてもせまい生き方をしているようで、耐えきれなかったですね。飛び出したらバンコクでした。（笑い）

■プラティープさん、日本はいかがですか。

日本ですか。……日本人は愛国的なエコノミック・アニマルで（笑い）、技術と知識、能力を発揮して第三世界の諸国を侵略し、踏みにじっていると非難されています。しかし、思慮ある人は一面ばかり見るものではありません。日本は第二次世界大戦の後、くじけずに立直った模範的な国として、子供の教科書にも出てきます。

私は日本人をよく知っていますし、……私も秦家の一員ですから……（笑い）温和な人が多く芸術も高いものがあります。（笑い）

ただ、今回も新幹線に乗りましたが、消費文化はすさまじいですね。スラムの青少年たちは捨てられたビニールなどを回収して一円二円とかせぎます。スラムの人が来たらたちまちお金持ちですね。（笑い）

結婚式で（アジアにかかる虹より）

スラムの人が日本に来たらたちまちお金持ちですね

■ところで愚問ですがご結婚は

（秦）うーん。苦労しているけど底抜けに明るい、子どものためなら、一歩も引かない彼女かな。

（プ）自分の外にある困難は、どんなものも克服できる。心の迷いや悲しみは越えにくい。彼ならきっと支えてくれると信じて。彼には『オーネスティ』正直さをお願いしたい。妻と生まれてくる子どもたちに生涯正直であって欲しい……間違いないことですけど。（笑顔で）

秦さんは国連機関からも参画を依頼される程の人材。プラティープさんは『崩壊家庭の子ども救済』『麻薬追放地区の宣言』『九つ目の幼稚園開設』を目標に活躍中。

このインタビューは楽しく笑いながら伺ったが、振り返ってみると笑っていられない問題ばかり。我々もますます信頼の高まる現地活動に劣らず、国内支援活動を活発化させようではありませんか。

ご注意

募金を暗に強要するような救援活動にはご注意下さい！

●難民救援団体が呼びかけた警告

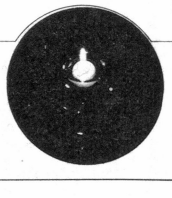
見知らぬ人の戸別訪問募金は一切デタラメと思ってよい

一昨年になるが、曹洞宗ボランティア会などのアジア・アフリカ難民救済活動を行なっている『難民救済会議』からおかしな救済活動に注意を呼びかける異例の声明が発表された。しかし、まだまだ、この種の募金活動が横行し被害・苦情もあとを絶たないのが現況である。

責任の所在のはっきりした救済活動団体では「不明確な強制的な募金（戸別、街頭）や物品販売は一切やっていない」とのこと。また、募金であれば何でも正しいことに使われていると思いがちだが、使用目的、責任所在地、会計決算等を確認する必要があり、さらに、公的機関の募金運動であっても、使用を確認・指定した方がよいとのことである。

流し燈籠
水に溶け、無毒・無害で汚染なし!!
◆特　長◆
●流し燈籠の素材は、すべて水に溶解します。
●約30分位水面に浮き、その後完全に溶解します。
●無毒・無害であり、溶解後も河川を汚染しません。
●回収の必要がまったくありません。（諸官庁許可済）
1基（大）700円　（小）360円

水に浮かぶ玉ローソク
大玉（5時間）5ヶ入◎600円
小玉（2時間）5ヶ入◎450円
火気に対しては、絶対安心です。戸外でも、ご利用できます。
空・風・火・水・地の五色入〔五如来様〕
●ご寺院専用真鍮燭台
イ平素お詣り時の灯明用
ロご法要時の補助灯明（視聴覚布教用）



高さ25cm特註品極上磨き（化粧箱入）
1対（2基）大玉10個付
29,600円
お施餓鬼用（5基）大玉30個付
68,000円

株式会社光和
〒251
TEL. 神奈川県藤沢市辻堂元町2-20-17
0466(33)6301(代表)
(36)4111(直通)

阿波 城満寺復興事業
本格的に始まる

城満寺住職 大槻哲也老師

常済大師初開の道場として知られている城満寺は長曽我部軍の侵攻などで長く歴史的空白の時代がありました。心ある宗侶によって引き継がれていた復興の願いは、大正十四年の瑩山禅師六百回大遠忌の折、初めて迦藍再建の事業として提起され、堂宇一棟が建立されたのであります。

戦後になって復興計画も再提起され大本山総持寺独住第十七世渡辺玄宗禅師を第二世として勧請し、法嗣月海頼応老師によって復興が図られ、四十四年からは現住大槻哲也老師によって整備が続けられています。

復興の計画は四十八年に常済大師の御分骨を奉安申し上げて以来、新居浜瑞応寺僧堂の遠鉢・行事随喜等を得るなどして順調にすすみ、さらにこの度、等身大のご本尊釈迦牟尼仏、更に迦葉、阿難の両尊者像が完成をみ、本年十月二十一日には梅田禅師猊下のご臨席をあおぎ、瑞応寺楢崎一光老師による開眼法要を迎えるに至っています。

法要については別記の通り行なわれますが、併せて本堂建立、環境整備等で総額三億円にのぼる事業が計画されていました。

さきの四国曹青大会で、大槻老師より復興計画の概要の説明があり、全国の青年会員各位の絶大なる支援を懇請されましたのでここでご報告いたしますとともに各位のご協力をお願いいたします。

●連絡先
〒七七五―〇三　徳島県海部郡海部町吉田
城満寺
電話　〇八八四七―三―二〇九三

城満寺報恩摂心会案内
西堂　楢崎一光老大宗師

●日程　自 昭和六十二年十月十二日　至 十月二十一日
十二日　地元六ケ町村報恩托鉢
十七日　十三時　禅の集い
十八日　法要準備
十九日　十七時　大祖常済大師降誕会法要
二十日　伝灯講式
二十一日　十時　本尊仏開眼法要　大般若転読　十一時　総回向表彰式　御垂示

●会中差定
四時　振鈴　暁天
朝課
行粥
八時　托鉢・作務
十一時　斎座
十三時　作務
十五時　帰山
十七時　薬石
十九時　夜坐
提唱
二十一時　開枕
地元参禅者等暁天・夜坐に参加

※有志各位の随喜奉仕をお願いいします。

研修委員会より

禅の集いの充実に向けて活動内容をご報告下さい

禅の集いの運動は昭和三十一年の静岡松月院の『曹洞宗青年幹部講習会』で一気に盛り上り、全国に波及していきました。また、この運動は青年会発足の原動力ともなったわけです。

各地で展開されるこの集いにはそれぞれ地域の特色があり内容を云々する事項ではありませんが、活動を継承展開する者としてはたえず検討を加えていかねばならないことであります。

全曹青では、各地の活動充実に供与すべく各資料の再編を予定しています。各曹青より今夏『禅の集い』資料内容等の提供をお願いいたす予定でいますので準備方お願いいたします。また、今朝の総会（五月十九日）に前年度資料をご持参いただければ幸いであります。更に参加者に対する具体的なアフターケアを実施されています団体がありましたらお知らせ下さい。

研修

詩偈と禅(九)

山口晴通

早いもので、本項も今回をもって終了となる。そこで宗侶として、斬学方面への心構えと、身近な資料について述べてみたい。

我々宗侶は専門の詩人ではない。これは古徳より現代にいたるまで一貫した潮流である。参禅弁道こそ本来の主旨であって、貴重な時間を詩作にのみ浪費することは、本来顛倒と言えるであろう。

しかし先徳の多くが、森羅万象をふまえ、自己の大悟小悟の胸中を、詩偈によって表現されてきた事も歴史的事実である。

不立文字の禅門に、膨大な語録が残されていることは、この消息を物語っている。

故に、あくまで自己の感懐を披瀝する表現形式として、詩の形を借用したものである。

したがって、作詩の技巧面のみにはしる必要もなければ、作品の上手下手を論ずるものでもない。しかし、「詩偈」である以上、最低の規則は守ってほしい。そうでなければ「散文」の形で表現すればよいのである。

幸に我々は、詩偈を参究するために、身近に素晴しい資料があるので、改めて眺めてみることにしたい。

『曹洞宗報』の第一頁には「おりおりの詩偈」欄がある。昭和五十六年から二ヶ年間にわたり、毎月一首ずつ筆者の作品を掲載させていただいた。

その後、遠藤友彦師が御自作のものをはじめ、各種の詩偈を披露されているので、諸兄も是非参考にして貰いたい。

「祖師たちの遺偈」やはり『宗報』誌上に本年三月号まで、吉岡博道師が前後二ヶ年間にわたり、綿密な時代考証と法系等に立脚して、遺偈の数々を掲載しておられる。一度は自分の身にかかる一生受用底の事柄である。平生、よく参じておくとよい。

『傘松』『跳龍』の両誌は、宗侶の詩偈参究には、非常に豊富な資料が提供されている。筆者も『詩偈入門』上下二巻の執筆にさいし、はかりしれない恩恵に浴することができた。『傘松』誌上にも紹介されているように、『大休悟由禅師広録』も最近刊行されている。『跳龍』誌上では現在、寺山旦中先生が、「書と人」と題して執筆しておられる。もともと、詩と書とは一体のものである。ここに掲載されている禅語、詩偈等もまた大切なものばかりである。

『曹洞宗近代香語集』全三巻が出版されていることは、今更ながら意義深いものを感じる次第である。大いに活用してもらいたい。

作詞法の初歩を会得した上で、桜井秀雄先生著による正統の『曹洞宗回向文講義』を誦読してみると、日常茶飯事の各種の行事のなかに、また新しい意義を発見するものである。

こうした宗内の典籍とは別に、書店には漢詩関係の総集別集等の書籍が沢山陳列されている。中国関係の風物も、テレビによって放映されているし、天童山をはじめとして、直接、彼の地を訪問することもできるようになった。

こうしてみると、我々は居ながらにして、詩偈の豊富なる教材に恵まれていることがわかる。あとは志の有無である。

諸兄の情熱に期待したい。

全曹青の今後ますますの発展興隆を願いつつ、本論を終了させていただく次第である。

合掌

（山口先生には九回にわたり講座をお願いしました。今回で一応終了といたします。ありがとうございました。）

全日本仏教青年会の現況を探る⑤
共通する活動を求めて

青年会活動の問題点

今回の全日仏青比叡山結集にあたり執行部によって事前実施されたアンケートによる活動意識の調査は各仏青の活動を一々報告する必要もなく討論時間に制約のある会では効果的な資料となった。

この解答は、宗派仏青、（全曹青、天台仏青、浄土仏青など）と地域仏青（県・市）が混在して回答していることを前もってご了承願います。

分科会から

一、我々はいかに手を取り行動できるか。

今回の会はこのテーマに集約できる。全日仏青が求めているのは仏教徒としていかに連帯するかである。

ここでは

1　地域の活動（各宗合同の地域仏青）
2　宗派仏青と他宗派の協力
3　仏教者の役割
4　連携システムは

といった小項目を設け回答を求めている。地域仏青の活動を基にした設問であるが、

1　については県単位の組織ができている所では『歳末助け会い運動』の托鉢募金が地域の活動として開催されている例が多い。

2　は愛知の花まつり協力が目を引く。

3　神奈川では青少年問題を共通事項として取り上げ、仏教者の社会のアプローチを報告している。

4　全日仏青を中心とした組織の完成を望む一方、宗派仏青からは全日仏青との組織づけの明確化が期待されている。

二、救援・奉仕活動についていかに連携するか

ここにも小項目が設けられ

1　救援・ボランティア活動
募金活動の報告が多い中で、群馬仏青の受刑終了者への更正保護活動、浄土宗仏青の災害救援活動実施規定が興味深く多くの質問が出た。

2　募金活動献金の行き先
NHK、日赤、等が上ったが、アドバイザーとして参加されていた曹洞宗ボランティア会有馬事務局長より「キリスト教団体などは自分達で集計して発表する。仏教団体は何もしていないように思われるが実際は巨額の募金があるはずだ。集計したらどうか」「街頭募金にはいかがわしい内容のものもある。また、送金先が公的機関であっても使用用途を確認すべきである」と指摘を受けた。

三、社会活動についていかに連携するか。

1　寺院の果す役割
多くの仏青が『安心できる場所の提供』をあげている。また、社会奉仕的な役割を願った回答も多い。

2　仏青の果す役割
自己のみの活動に止まらず、社会の中での活動を求め宗派を越えて協力すべきという意見に集約される。

その他、ホスピスに対し仏教者として早急に取り組むべしという意見が載っていた。これには新潟で検討されている『ビハーラ』（仏教ホスピス）が紹介され注目を集めた。

アンケートの解答はそれぞれの立場からでありすぐに実行に移せるものではない。しかし、この資料をもとに参加者が真剣に意見を交換したことは今後の全日仏青に大きく影響するであろう。全日仏青は活動する会に向って大きく前進しようとしている。全曹青も傍観することなく積極的に取り組む時が来ているように思える。

（今回で全日仏青編は終了します）